2019. 第28号

富山大学
医学部同窓会報

2019. 第28号

富山大学
医学部同窓会報

C O N T E N T S

4. 学長挨拶　学長　遠藤 俊郎

6. 会長挨拶　会長　田淵 英一（医学科　昭和62年卒）

7. 意思決定の場で女性が少ない日本 ～次は政治に！
女性クリニックWe! TOYAMA　代表・産婦人科医　種部 恭子（医学科　平成2年卒）

8. とやま多職種連携教育プロジェクト「とやまいぴー」の活動報告
公立穴水総合病院　卒後臨床研修センター　医長　小浦 友行（医学科　平成17年卒）
富山市まちなか診療所　三浦 太郎（医学科　平成18年卒）

10. がんゲノム医療が始まりました！
臨床腫瘍部　林　龍二（医学科　平成3年卒）

13. 膵臓・胆道センター設立　消化器・腫瘍・総合外科（第二外科）教授
膵臓・胆道センター　センター長　藤井　努

14. 富山大学附属病院・包括的脳卒中センターの開設にあたって
脳神経外科　黒田　敏

15. 写真でふりかえる「杉谷の森合奏団」のあゆみ
杉谷の森合奏団団長　廣田 弘毅（医学科　昭和59年卒）

16. 地域医療総合支援学講座を担当して
地域医療総合支援学講座　客員教授　峯村 正実（医学科　昭和61年卒）

18. 第19回富山大学看護学会学術集会を開催して
学術集会長　金森 昌彦（医学科　昭和59年卒）

20. 大学院部会の立ち上げと担当理事就任
富山県済生会富山病院　病理診断科　係長　田近 洋介（医学科　平成28年卒）

＜病院紹介＞
21. 都市中心地に設立した公設公営診療所 ―まちなか診療所―
富山市まちなか診療所　三浦 太郎（医学科　平成18年卒）

表紙「森へ」ロウケツ染　　加藤 千代

24. ちゃベカフェin看護学科　基礎看護学2　坪田 恵子（看護学科　平成10年卒）

25. 卒業生からのメッセージ

26. 留学便り　小児科　板澤 寿子（医学科　平成7年卒）

＜新任教授就任挨拶＞

28. 教授就任のご挨拶 ― 血液内科医のUターンを応援します ―　血液内科　佐藤　勉

30. 就任の御挨拶　内科学第三講座　安田 一朗

31. 教授就任挨拶　放射線診断・治療学講座　放射線腫瘍学部門　齋藤 淳一

32. 教授就任あいさつ　医学薬学研究部（医学）免疫学講座　岸　裕幸

＜退官寄稿＞

33. 退官にあたって　医学薬学研究部分子医科薬理学講座　教授　服部 裕一

＜訃報＞

35. 小林　正先生との思い出
第一内科　助教　藤坂 志帆（医学科　平成13年卒）

37. 医学部同窓会会員名簿のお知らせ
38. 第11回富山大学ホームカミングデー・プログラム
39. 平成30年度富山大学附属病院関連病院長懇談会理事会議事要旨
41. 平成30年度富山大学附属病院関連病院長懇談会総会議事要旨
43. 平成30年度　第37回富山大学医学部同窓会総会　議事録
46. 職掌分担
47. 評議員一覧
48. 平成29年度会計報告
50. 2018富山大学医学部人事消息
52. 行事
53. 編集後記
54. 会計からのお知らせ

学長挨拶

学長　**遠藤　俊郎**

医学部同窓会会員の皆様には、ご清祥ご活躍のこととお慶び申し上げます。

時代は大きく変化しています。科学・情報技術の急激な進歩・普及は、「医学・医療」分野の研究・臨床活動においても、10年前には想像できなかったスピードと拡がりで成果・発展を生み出しています。一方で世界の社会・経済情勢は混沌の度合いを深め、特に少子高齢社会を迎えたわが国では、教育と医療の改革が正解の見えない大きな課題となっています。国立大学においても、国家の厳しい財務・政策状況を反映し、組織・財務・運営の縮減政策、教職員の業績向上や評価の具現化など、改革強化に向けた動きが年々厳しさと激しさを増しています。

このような厳しい時代だからこそ、大学・大学人は現状に安穏とせず、自己の持つ強みを発揮し、社会に対して貢献を果たし、将来に向け挑戦を続けることが責務と考えます。富山大学においては、2018年4月、「都市デザイン学部」の開設、教養教育の五福キャンパスでの一元化を実現いたしました。3大学再編統合が目指した「１法人１大学」の具現化であり、富山大学が真の大学改革に向け新たな扉を開いた証となりました。その後も医薬理工・人文社会系大学院および和漢研など各センターの機能強化・充実を目指し、全学規模の組織・運営体制の再構築・改革も企画・推進しております。また地域・国際社会に向け、学外発信も積極的に展開しています。例えば10月には、内閣府所管の「地方大学・地方産業創生交付金対象事業」において、県内の産学官金組織が一体で申請した「富山発の創薬事業計画：『くすりのシリコンバレーTOYAMA』創造計画」が、全国的激戦の中で採択されました。『創薬』という薬学・薬業の本流を問う事業であり、本学にとっても大きな励みとなっています。

さて私は、1979年10月に開院直後の富山医科薬科大学附属病院に着任して以来、ほぼ40年を大学人・医療人として富山で過ごしてまいりました。この間、1982年春卒業の第1回生（医学科）から2018年入学の皆さんまで、本学医学部の諸君とは講義・実習・部活動などを通じて時間を共にし、また多くの皆さんとは卒業後も様々な形でお付き合いを続けることができました。私にとって富山医科薬科大学／富山大学の医学部・附属病院は心の母校であり、過ごした時間は全てが充実した幸せな思い出となっています。皆さんが創り、積み上げてこられた医学部の伝統・業績に敬意を表するとともに、同窓会を支えてこられた高田先生・田淵先生・足立先生を初めとする事務局関係各位のご苦労に、心より感謝の意を捧げます。本年3月末日、私は8年間勤めた学長職を退任いたします。これまで富山大学の活動・運営に、ご支援ご協力を頂いてきた医学部並びに同窓会の皆様に、改めて感謝申し上げます。あわせて長年にわたりお世話になってきた多くの皆様方に、心より感謝・御礼を申し上げます。

多くの国立大学にとって、今後の4年から10年は各大学の存亡をかけた、競い合いの日々となることでしょう。医学部（医学科・看護学科）・病院も例外ではありません。現時点で、富山大学の将来像を明確に描くことはできませんが、だからこそ伝統と実績を育んできた医学部同窓会関係の皆様の活躍・貢献にかかる期待は、一段と大きなものとなっています。

皆様の益々のご健勝ご活躍を祈念いたします。